

は やま

羽山

校訓：敬愛・探究・勤労

教育目標：豊かな情操をもち、自立的に生きる生徒の育成

文責：柴田町立船迫中学校長 曾根 秀輝

仲間、後輩、保護者、コーチ、先生に感謝！～「交流会」の感想～

7月23日(木)・24日(金)に柴田郡中体連「交流会」が行われました。種目によっては、個人戦のみとか、団体戦のみであったり、「密」を避けるために、3年生のみの出場であったりしました。しかし、保護者が見守る中での戦いは、中総体のような雰囲気が出ていたと思います。今回、交流会に参加できなかった1,2年生は、3年生の最後の雄姿を見ることができず、残念に思いました。

さて、交流会に出場した3年生部員は、実際にどのような思いで臨んだのでしょうか。各運動部の3年生に、交流会に出場した感想を書いてもらいましたので、紹介します。中学校最後の試合で緊張した様子、仲間と共に戦える喜び、今までお世話になった人たち(3年生の仲間たち、後輩たち、保護者、コーチ、顧問)への感謝の思いなどが書かれていますので、是非、ご一読ください。

僕が交流会で思ったことは、たくさんありますが、一番印象が強いのは「3年間共に過ごしてきた仲間」です。なぜかという、試合中、相手チームに大きくリードされても、「あきらめるな!」、「まだ時間はある!」などの声をかけられ、勇気をもらい、頑張れました。結果はともかく、僕は「仲間」と全力で試合をできたことが嬉しいです。

バスケットボール部3年 渡邊空哉さん

新型コロナウイルス感染症の影響で中総体がなくなり、「交流会」となってしまいましたが、これまでの3年間頑張った成果を十分に発揮できました。剣道部の目標である「悔いなく笑顔で終われるようにする!」を皆で達成できたと思うので、良かったと思います。そして、今までお世話になった人たちには感謝しています。今まで、ありがとうございました。

剣道部3年 佐藤翔太さん

僕たちサッカー部は、今まで合同チームを組んでいた槻木中と対戦しました。試合は0対2で負けてしまいましたが、迫中全員が本気を出せたと思います。これまできつい練習をたくさんしてきましたが、仲間だった相手だからこそ乗り越えられたと思います。槻木中、応援してくださった保護者や2年生の皆さん、支えていただき、ありがとうございました。

サッカー部3年 細川稀史さん

「交流会」では、これまでの練習の成果を全部出し切れたと思います。中総体ではない「交流会」という形でしたが、納得のいく泳ぎができたと思います。色々な人に応援されて、頑張れました。これからも水泳を頑張りたいです。

水泳3年 豊川蓮音さん

中学校生活最後の試合となった「交流会」では、結果は惜しくも負けてしまいましたが、今まで一生懸命取り組んできた成果をしっかりと出すことができ、部員の仲間と協力し合うことの大切さも知ることができたので、良かったです。応援してくださった方々にとても感謝しています。ありがとうございました。

ソフトボール部3年 櫻井 萌さん

中総体がなくなり、3年生は「交流会」が最後の部活動になりました。結果は2対1で村田一中に負けてしまいましたが、野球部員一人一人が全力で戦いました。ここまで来ることができたのは、油谷先生の指導があったからこそだと思います。今まで、ありがとうございました。

野球部3年 武藤将生さん

3年間の成果が出せる中総体が無くなってしまって残念でしたが、「交流会」という形で試合ができて良かったです。「交流会」では、みんな楽しそうに試合をしていました。しかし、僕は2試合とも、惜しくも負けてしまったので、とても悔しかったです。今までお世話になった先生方やコーチ、保護者の皆さん、本当にありがとうございました。

卓球部3年 峯尾綾斗さん

3年生にとって最後となる「交流会」でした。勝った部もあれば負けた部もありますが、バレー部は槻木中と川崎中に負けて悔しかったです。しかし、とても良い「交流会」だったと思いました。顧問の小関先生と校長先生は、普段から時には優しく、時には厳しく、試合では私たちが苦しい場面を乗り切れるように踏ん張れるように厳しく指導してくださったおかげで、ここまで来ることができたと思います。本当にありがとうございました。

バレーボール部3年 笹久保愛理さん

私たちは個人ダブルスの総当たり戦でした。第1試合は大変緊張し、思うように身体が動かず失点が続いてしまいましたが、徐々に緊張がほぐれ、パートナーと協力しながらプレイすることができました。その結果、練習の成果を発揮し、良い結果をおさめることができました。今まで応援ありがとうございました。

バドミントン部3年 大宮玲愛さん

「交流会」本番、団体戦の2回の試合の中で、私たち3年生は全勝しました。その中で、2年生は初めて勝ち、とても良い試合になりました。試合途中、私のダブルスのパートナーが上手くできなくて落ち込んでいる時に、私は積極的に励ましの声をかけました。また、逆に私が励まされた場面もあり、お互いに協力して頑張りました。試合をしていて、私は、「戦う時は、すべて『心』が大切だ！」と思いました。

ソフトテニス部3年 岩間音巴さん